学校番号	3004

2020(令和2)年度　公民科

教科	公民	科目	現代社会	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「高等学校　現代社会　新訂版」(清水書院)						
副教材等	地歴高等地図（帝国書院） 「私たちが拓く日本の未来」(総務省　文部科学省) 「働く若者のハンドブック」(大阪府総合労働事務所)						

１．担当者からのメッセージ（学習方法等）

・社会的事象を多面的、総合的に見る視点を持とう。
・様々にあふれる情報をどのようにとらえ、読み込んで活用し、自分の判断と行動に生かしていくか考えよう。
・世界の国々諸事情を踏まえ、その関係の中でこれからの日本のあり方と自分のかかわりについて考えよう。
・社会人になるにあたって必要な心構えと準備を整えよう。

２．学習の到達目標

人間の尊厳と科学的な探究の精神に基づき、広い視野に立って現代の社会と人間についての理解を深め、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに、自ら人間としてのあり方・生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民としての指針をもち、必要な能力と態度を育てる。

３．学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a．関心・意欲・態度	b．思考・判断・表現	c．資料活用の技能	d．知識・理解
観点の趣旨	社会の問題と人間にかかわりに関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする。	社会の問題と人間にかかわる事柄から課題を見いだし、社会的事象の本質や人間としてのあり方生き方について、広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	社会の問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	社会の問題と人間としてのあり方生き方にかかわる基本的な事柄を理解し、その学び方や知識を身に付けている。
評価方法	授業への出席と関与 板書ノートやプリント等への取り組み	定期考査 ノート・プリント等への取り組み 発問回答や意見交換 小論文	定期考査 授業プリント等の取り組み 授業での発表	定期考査 ノート・プリント等への取り組み 発問回答評価

上記の観点に基づいて学習のまとまりごとに評価して、各学期に 100 点法でまとめ、さらに学年末に５段階評定で示します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４．学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元（題材）の評価規準	評価方法
1	第一編　現代社会における諸課題							
		1)地球環境問題 2)資源、エネルギー問題 3)生命 4)情報	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a. 問題の原因や対策、現状と課題について理解し、今後の政策のあり方についても考える。 b. 地球的、人類的問題として倫理的課題や個人の尊厳などから考える。 c. 氾濫する知識と情報を、どのように取捨選択し、適切に活用するかを考える。 d. 社会の発展が利便性をもたらす一方、様々な問題も引き起こしていることを理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	第二編　現代社会のあり方と私たちの生き方							
	第一章 青年期	第１節　青年と自己実現 1)青年期とは 2)現代社会と青年期の生き方 3)働くこと、社会とのかかわり	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○ ○	a. 青年期を自分の状況から理解する。 b. 青年期が延長されている現状を把握し、モラトリアムの意味と問題点を考える。 c. 青年期の特徴について、様々な調査データからつかむ。 d. 現代社会の雇用の現状と課題を把握し、共生社会における働き方について考える。	・授業態度 ・発問評価 ・定期考査

	と自己の形成	第２節　よりよく生きる 1)哲学と思想 2)信仰と世界三大宗教 3)近代への歩み 4)近代社会を生きる 5)近代理性への批判 6)日本の生活文化 7)日本の伝統思想	 ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ ○		 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a. 先人の生き方や考え方を学び、豊かな人生とはどのようなものか考える。近代ヨーロッパの歴史や社会の変化の中であらわれた思想を理解する。日本の仏教や儒教がどのように変容し、さらに近代日本ではどのような思想が展開したのか理解する。 b. 近代ヨーロッパの自然観、人生観の歩みについて理解する。20 世紀に入り、近代ヨーロッパの理性中心の考え方に対してあらわれた新たな人間観について理解する。 d. 世界宗教となった宗教のそれぞれの特色を知り、共通するものを理解する。身の回りのものと関連付けながら、日本の生活文化や伝統文化について理解する。	
	第二章　現代の民主政治と政治参加の意義	第１節　民主政治の基本原理 1)基本的人権の保障 2)日本国憲法の成立と三大原則 3)日本国憲法の国民主権と天皇制 4)日本国憲法の人権保障-平等権と自由権 5)日本国憲法の人権保障-社会権 6)日本国憲法の人権保障-政治に参加する権利と新しい人権 7)国の法律・政策を決める国会 8)国の具体的な政治を行う内閣 9)人権と法を守る裁判所 10)日本の平和主義	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a. 基本的人権が、どのような歴史を経て獲得されたかを理解する。日本国憲法の保障する参政権と請願権について知り、新しい人権とは何かについて考える。日本の平和主義について第９条と自衛隊との関連をもとに考える。 b. 日本国憲法の国民主権について理解し、象徴天皇制のあり方について考える。日本国憲法の保障する社会権と自由権との違いを理解する。議院内閣制のしくみと特徴について理解し、行政権の拡大の問題点について把握する。 c. 日本国憲法にある人権保障の中で、平等権と自由権について理解する。 d. 日本国憲法と大日本帝国憲法との比較から相違点を考えする。また日本国憲法の三大原則を理解する。国会のしくみと働きについて理解する。裁判所の役割としくみについて理解し、司法権の独立の意義について考える。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		第２節　国民の政治参加と地方自治 1)地方自治－住民の政治参加 2)政党政治と選挙 3)マスメディアの役割と世論の形成	 ○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○ 	 ○ ○ ○	a. 民主社会における一人ひとりの人間の生き方・あり方から、政治参加について関心を高め、意欲的に追求する。 b. マスメディアと世論の関わりを理解し、民主政治に与える影響について考える。 c. 政党の役割を知り、選挙のしくみや課題について理解する。 d. 地方自治の意味や役割、および地方自治の新たな動きについて理解し、知識を身につけている。	・授業態度 ・発問評価 ・定期考査
2	第三章　個人の尊厳と法の支配	第１節　個人の尊厳と法 1)個人の尊厳と自由、責任 2)個人と社会 3)法の意義と役割 4)開かれた司法制度に向けて	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ 	 ○	 ○ ○ ○ ○	a. 自由と責任のかかわりについて、先人の思想を踏まえながら考える。 b. 社会契約説から、国民がいかに政治にかかわっていくべきかを考える。 c. 司法制度改革の背景と内容を理解し、市民として裁判員制度にどのように関わるべきかを考える。 d. 生活を送るうえで守らなければならないルールの意義について考える。	・授業態度 ・発問評価 ・定期考査
		第２節　民主社会と倫理 1)生命はかけがえのない価値を持つ 2)差別のない世界へ 3)公正な社会の実現をめざして	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○	 ○ ○ ○	a. 生命に対する尊重と畏敬の精神を持つとともに、科学技術の発達にともなう倫理的課題について考える。 b. 人間の尊厳と誰しも平等であることを理解し、差別のない社会に向けて何ができるかを考える。 c. 現実社会の実態を資料的に分析し、公平な社会のあり方を、正義や共生という概念から考える。 d. 正義・共生について理解し、その知識を身につける。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

	第四章 現代の経済社会と経済活動のあり方	第１節　現代の経済社会 1)経済主体と経済循環 2)景気変動と物価 3)経済規模と経済成長 4)戦後の日本経済の復興と民主化政策 5)企業の役割とはたらき 6)租税のしくみと財政政策 7)金融機関と金融政策	 ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a.市場メカニズムなど経済の基礎的なしくみと概念について理解する。 b.景気や物価の変動の原因を理解する。金融のしくみと役割を理解し、金融の自由化の現状について考える。 c.GDP や GNI など国の経済をはかる「ものさし」について理解する。財政と租税のしくみと機能について理解する。 d.戦後の日本経済の歴史的過程について理解する。企業の役割とはたらきについて理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・定期考査
		第２節　経済活動のあり方 1)社会保障制度の役割と課題 2)いま、どんな労働問題があるのだろう？ 3)環境を守るために 4)私たちの安全な食物と日本の農業 5)消費者と企業－私たち一人ひとりの責任 ［課題学習］ 就職について考える	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	a.社会保障制度の歴史的経過を把握させ、制度の内容と課題について理解する。 b.消費者の権利を理解し、かしこい消費者になるためにはどのように行動すべきかを考える。 c.日本型雇用慣行および労働者をめぐる状況の変化について理解する。 d.公害の歴史と、それに対する政府や企業の取り組みを理解し、自分たちにできることを考える。日本の食料の現状を理解し、これからの食と農業のあり方について考える。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
3	第五章 国際社会の動向と日本の果たすべき役割	第１節　国際社会の動向 1)グローバリゼーションと国際社会 2)冷戦のはじまりと世界の動き 3)国際収支と為替相場 4)経済のグローバル化とリージョナリズム 5)国際経済における諸課題 6)冷戦後の世界 －紛争の解決に向けて－ 7)核兵器と軍縮の問題 8)国際連合と国際平和	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a.国際社会の成り立ちと、近年のグローバル化について理解する。南北問題の解決に向けてできることは何かを考える。 b.第二次世界大戦後、世界の体制はどのような展開をしたのかを理解する。経済のグローバル化の問題点を理解し、リージョナリズムの進展について考える。冷戦後の世界における紛争の現状と背景について理解する。 c.国際収支のしくみと、為替相場の変動要因と社会に与える影響について理解する。核の脅威から解放するには、不断の努力が必要であることを理解する。 d.国際平和をめざす国連の活動について理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・定期考査
		第２節　国際社会と日本 1)日本の安全保障と平和維持活動 2)日本と世界のつながり 3)私たちの国際協力	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○ ○	a.冷戦後の国際情勢の変化を理解し、日本のとるべき進路について考える。 b.国際社会における日本のあり方について、様々な意見を比較検討し、自分の意見をしっかり表現できる。 c.グローバル化する日本と世界の現状を理解し、共生社会の実現に向けて考える。 d.国際協力の現状を理解し、真の国際協力をめざすにはどうしたらよいのかを考える。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	第三編　ともに生きる社会をめざして							
		○先進国と発展途上国 ○財政から考える現役世代と将来世代 ○臓器移植を考える	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ 	○ ○ ○	a.社会と社会の関係に着目させ、経済格差の問題をどのように調整すれば望ましい解決になるのかを考察する。 b.個人と社会の関係に着目し、社会の維持発展のために自らが社会とどのように関わるかを考察する。 c.現役世代と将来世代の関係に着目し、国債残高の負担とそれぞれの幸福の調和について考察する。 d.将来社会のあり方を考える上で必要な知識を多様に収集し、整理して理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題

表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。